



関東森林学会ニュースレター

関東森林学会事務局

第 11 回関東森林学会大会のご案内

昨今の状況を踏まえて、担当理事および幹事会で検討を重ねた結果、本年もオンライン開催を基本として進めて行くことになりました。参加・発表の形態についても検討をした結果、昨年度と同様の方法で開催することとします。

主催 関東森林学会
共催 新潟県、日本森林技術協会、日本森林学会
開催日 令和 3 年 (2021) 年 10 月 27 日 (水)
開催場所 WEB 上での開催となります。
実施内容

幹事会	10 月 20 日 (水) に Zoom にて開催
学会発表	10 月 27 日 (水) 9 : 00 より登録ファイルを WEB で公開
総会	10 月 27 日 (水) 13 : 00 ~ 13 : 30 に Zoom にて開催
公開講演	10 月 27 日 (水) 13 : 45 より WEB で Live 配信

学会発表、総会における質疑は全て学会ページ内での書き込みにより対応することにします。方法について、それぞれの項目をご参照下さい。

□ 特別講演

演題：野生動物との共存と森林管理（仮題）
演者：新潟大学農学部 教授 箕口 秀夫

大会当日（10 月 27 日）13 : 45 より、Zoom でのライブ配信を行います。ライブ配信に質疑応答も行います。

ライブ配信は非会員の方でもご視聴いただけます。希望される方は、メールアドレス (kantoforest11th@yahoo.co.jp) 宛に、件名は「公開講座聴講希望」と記して、本文に「所属、氏名」を記載してお送りください。聴講用 URL のご案内は、10 月 25 日 (月) 頃となります。

なお、本講演は録画した映像を大会ホームページにて 10 月 29 日 (金) 17 : 00 まで公開します（こちらは非会員の方は視聴できません）。録画を視聴しての質問等は、大会ページのコメント欄に記入してください。質疑への回答は、記入締め切り後に演者にコメント欄へ記入していただきます。記入期間や閲覧期間は、研究発表の質疑応答に準じます。

□ 総会

総会は 10 月 27 日(水)13:00～13:30 に Zoom にて行います。URL は学会 HP にてお知らせします。挨拶、表彰、議事(質問やコメントに対する回答方式)、その他の順番で行います。10 月 20 日(水)の幹事会開催後に総会資料を大会ページ上にアップします。質問、コメントがありましたら 10 月 25 日(月)17:00 までに事務局(satota@nodai.ac.jp)までお送りください。

□ 発表方法

本年は以下の二通りの方法で発表内容をファイルにして事前に提出して頂くこととします。

- 1) 音声付きスライドショー(動画ファイル、ムービーに加工したもの)

ファイル形式はmp4

- 2) 発表スライドに説明テキストを挿入して PDF ファイルに変換したもの

ファイル形式は PDF

※ファイル作成方法に関するガイドを文末に添付しますのでご参照下さい

提出はどちらの形式を選んで頂いても構いません。使用しているサーバーの容量の関係で、ファイルサイズを 1)mp4 形式場合は最大 150MB、2)PDF 形式の場合は最大 15MB 以下に制限させて頂きます。mp4 形式の場合は、録音時間について 12 分以内(厳守)として下さい。また、ファイル管理上の仕様で、上記のmp4 形式か PDF 形式以外のファイルは提出できない点にご注意下さい。mp4 動画ファイルは、原則として大会ホームページでの公開になりますが、10 月 27 日(水)のみ YouTube でも限定公開します。PDF 版ファイルの場合は、ファイルサイズ(15MB 以下)以外スライド枚数等の制限は設けません。レイアウトも自由に作って頂いて構いません。**発表内容のダウンロード、コピーは禁止とします。**

発表ファイルの提出は大会ページ上のアップロードボタンから作業して頂きます。ファイルは最初の提出以降、再提出する度に上書きされて行く仕様ですので、何回でも更新できます。ただし、最終更新の期日は 10 月 25 日(月)24:00 とします。mp4 動画ファイルの YouTube へのアップロードは大会事務局で行いますので、特段の操作は必要ありません。なお、〆切日以降で、特段の事情により修正が必要な場合は大会事務局か学会事務局にお問い合わせ下さい。

発表用に提出されたファイルおよび視聴用サーバーにアップロードされたファイルはいずれも視聴期間が終了次第、速やかに削除され、大会事務局でも保存は致しません。

□ 発表視聴方法

発表ファイルは大会開催当日以降、大会ページからログインして頂くことで視聴できます。各発表ファイルは原則として 10 月 27 日(水)9:00 から 10 月 29 日(金)17:00 までアクセス出来るように設定されます。10 月 29 日(金)17:00 時点でファイルはサーバー上から削除され、以降閲覧できなくなります。

音声付きスライドショーは原則として大会ホームページでの公開になりますが、10 月 27 日(水)のみ YouTube でも限定公開され(通常検索ではヒットしません)、課題ごとの該当アドレスにアクセスする形で視聴して頂く方法を採用します。公開先アドレスは大会ページに発表課題ごとに記載されます。

発表スライド PDF 版は大会ページに発表課題ごとに格納され閲覧出来るようにします。

□ 質疑応答方法

大会ページには各発表課題の一覧が作成されますが、こちらから各発表課題を選んで頂くとコメント記入欄がありますので、記入ボタンを押して質問・コメントを記入して頂けます。記入コメントは古い順に一覧になって並びますので、順に閲覧して下さい。発表者が回答する際には、コメント入力状態で、「発表者ですか」欄にチェックを入れて頂くと、コメントが赤字表記となり識別しやすくなる仕様になっていますので、ご活用下さい。

大会当日の10月27日(水)15:00から16:00はコアタイムとして発表者の方は極力コメントに対してリアルタイムでの回答対応をお願い致します。

コメント等の記入は10月27日(水)9:00から10月29日(金)17:00まで記入出来るように設定されます。発表者の方は29日17:00以降に最終確認をして頂き、必要な回答等をご記入下さい。コメントの閲覧は11月1日(月)17:00までアクセス可能とします。

□ 発表論文のアップロード

ファイル作成ガイド<「ファイル作成イメージ」を参照としてください>

1) 音声付きスライドショー(動画ファイル、ムービーに加工したもの)

カメラ等で撮影された動画を利用しても構いませんが、一番簡便なのはパワーポイントでスライドショーを作成し、そのファイルに説明音声を録音し、最後に動画ファイル(MP4形式)に出力する方法です。

手順は以下の通り

- ① 発表スライドをパワーポイントで作成する、念のためこの状態で保存する
- ② 「スライドショータブ」の「スライドショーの記録」を選択すると、スライドが中央に配置され、左上に赤丸の記録ボタンが登場する。右下のビデオカメラマークに斜線が入っていることを確認する(斜線がないと、カメラがあるノートPCなどでは自分の映像が画面右下に挿入されます)
- ③ 準備が整ったら、録画の赤ボタンを押す
- ④ カウントダウン後録音が始まるので、それぞれのスライド絵の説明内容を録音する
- ⑤ →ボタンを押して次のスライドに移動し、説明内容を録音する
- ⑥ 順次スライドごとに録音していき、最後に説明が完了したら、左上の停止ボタンを押す
- ⑦ 下のスライド枚数表示と経過時間表示を確認する
- ⑧ 再生ボタンで内容を確認出来る
- ⑨ 良ければ、ESCボタンで初期画面に戻る
- ⑩ 「スライドショー」最初からで録音内容と時間繰りが確認出来る
- ⑪ 問題が無ければ、「ファイル」タブから「エクスポート」を選択し、ビデオの作成をクリックし、画面サイズを「標準 480P」にプルダウンで変更、またその下段の選択が「記録されたタイミングとナレーションを使用する」のままであることを確認し、下の「ビデオの作成」ボタンを押す
- ⑫ 出力ファイル名を聞いてくるので、保存場所を確認し、ファイル名を入力する。ファイルの種類がMPEG-4ビデオであることを確認し、保存する

以上で完了です。大会ページにアップロードするファイルサイズの上限が150MBですので、エクスポートする際にはご注意下さい。

2) 発表スライドに説明テキストを挿入してPDFに変換したもの

普通にパワーポイントなどで作成したスライドをPDFに変換したものです。基本的にはノート付きスライドを推奨します。スライドごとの説明内容はパワーポイント上でノートを表示出来るようにして、下

段のノートペインに書き込んで頂く方法です。ファイルはエクスポートから PDF/XPS を選択して、保存する際にオプションで発行対象をスライドからノートに変更して保存すれば、コメント付きの状態で PDF ファイルに変換できます。ただし、わかりやすいレイアウトに出来るのなら、上記のノート付きの形式に限定はしません。

重要な点は PDF 形式以外(例えばワードやパワーポイント)では提出できないことです。

□ 「関東森林研究」第 73 巻への投稿論文原稿の募集

関東森林研究は原則として大会において発表された論文を対象に編集します(編集委員会運営規則第3条)。第 11 回関東森林学会大会で研究発表される方は、発表内容を論文または速報として投稿することができます。投稿を希望される方は、投稿原稿等の必要書類を大会ページから電子投稿してください。投稿原稿の提出期限は 11 月 17 日(水)とします。

(1) 原稿の電子投稿

提出物:

- ①記入済みの投稿連絡票1部(PDF)
- ②論文原稿:電子ファイル 1 部(PDF) または 速報原稿:電子ファイル 1 部(PDF)
- ③英文原稿の場合、英文校閲済の証明書

提出先:<http://www.kantoforest.jp/>

投稿に関する問い合わせ:

宇都宮大学農学部森林科学科

関東森林学会 編集委員会(逢沢峰昭)

TEL:028-649-5531 FAX:028-649-5545

E-mail: aizawam@cc.utsunomiya-u.ac.jp

(2) 原稿作成上の注意

原稿作成に際しては、関東森林学会ホームページ(<http://www.kantoforest.jp/>)の投稿規定および執筆要領にしたがい、提出前に投稿チェック表で十分に確認した上で提出して下さい。審査は「関東森林研究」投稿原稿審査要領にしたがって行います。投稿規定、執筆要領を満たしていない原稿は受け付けませんのでご注意ください。また、原稿作成においては上記ホームページ上に掲載している、最新の原稿テンプレート(第 73 巻用)を必ず使用して下さい。ご協力のほどよろしくお願いします。

(3) 原稿審査

投稿規定、執筆要領を満たしていることが確認された原稿について投稿を受付け、担当の審査員を決定して審査を開始します。審査の結果、修正を要すると判断された場合は、著者に修正稿の提出を求めます。提出期限までに修正稿が提出されない場合は、投稿を取り下げたものとみなします。なお、第 73 巻は 2022 年 3 月末に第 1 号、7 月末に第 2 号を印刷発行する予定です。

□ 大会プログラム

分野	発表題名と所属
林政	
林政1	製材用素材の工場着価格、入荷量、在庫量変動の時系列分析－ARDLモデルを用いて－ 道中哲也（森林総研）
林政2	ステークホルダー分析を用いた埼玉県西川地域における林業関係者の認識課題等の考察 石佳凡・納富信（早稲田大）
林政3	市町村林務行政の支援体制に関する分析－森林経営管理制度関連業務を中心に－ 笹田敬太郎・石崎涼子・鹿又秀聡（森林総研）
林政4	『大日本木炭協会報』掲載記事にみる木炭政策の展開－木炭検査制度に着目して－ 土屋智樹・関岡東生（東京農大）
林政5	都道府県総合計画等における自然体験学習等に関する指標・施策 辻井寛（静岡県）・関岡東生・土屋智樹（東京農大）
林政6	農学系学科における技術者倫理教育に関する基礎調査－公開シラバス情報に基づく考察－ 本田尚正・二階堂志穂（東京農大）
林政7	高等学校の森林・林業教育における専門科目の開設状況 井上真理子・大石康彦（森林総研多摩）
風致	
風致1	木庭作と呼ばれる対馬の伝統的焼畑農業の体験学習参加者の意識に見る森林環境教育の可能性 杉浦克明・關正貴（日大）
風致2	森林環境教育指導者としての森林インストラクターに求められる知識 水井英菜（日大院）・杉浦克明（日大）
風致3	熊本県阿蘇地域における自然気象・災害伝承に関する調査研究 サルバドルノア・町田怜子・下嶋聖・入江彰昭・本田尚正（東京農大）
経営	
経営1	地上型レーザースキャナを用いた樹木サイズの計測－樹種の違いが計測誤差に与える影響－ 西園朋広・北原文章・齋藤英樹（森林総研）
経営2	UAVによる森林調査－現場での取り組み－ 小松玄季（関東森林管理局）・高柳修延・山野大樹（上越森林管理署）
経営3	林業経営におけるSDGsの効果に関する一考察－有限会社高見林業を事例として－ 齋藤州生・佐藤孝吉・吉野聡（東京農大）
経営4	原木市場における大径材を中心とした原木取引の現状－東京都多摩木材センターの事例－ 亀山翔平（東京農大）・佐藤洸介・杉浦克明（日大）
経営5	沖縄島北部世界遺産における森林分布と道路等の関係 宮本麻子（森林総研）・小高信彦（森林総研九州）
経営6	都市における里山の利用と管理－千葉県松戸市「関さんの森」の活動を事例として－ 佐藤孝吉・谷島陽一・江尻さおり（東京農大）・山田純稔（関さんの森を育む会）
造林	
造林1	赤谷の森における自然林復元試験 伊藤彰伸（関東森林管理局）・朱宮文晴（(公財)日本自然保護協会）
造林2	大北川溪畔林再生試験地における誘導伐後の高木性広葉樹の更新について－2019年調査データを踏まえたうえで、溪畔林への誘導可能性について－ 増田由幸・菊池敏男・安藤博之・須崎智広（関東森林管理局）・石神智生・池田伸（元関東森林管理局）・太田敬之（森林総研）・鈴木和次郎（元森林総研）
造林3	天然更新は簡単か？困難か？－皆伐跡地における天然更新の調査結果より－ 平野辰典（関東森林管理局）
造林4	東京農業大学・奥多摩演習林におけるカラマツ実生の分布と樹形の特性 上原巖（東京農大）
造林5	高齢ヒノキ人工林の林床における光環境の水平分布と林齢および施業履歴との関係 五十嵐哲也（森林総研）・宮本和樹（森林総研）・仲田昭一（茨城県林技セ）・中山優子（茨城県林技セ）
造林6	シカ食害発生地における下刈り(坪残し刈り)の効果 谷口美洋子（埼玉県寄居林森林研）

造林7	対数正規分布を仮定した植栽木の樹高指標 壁谷大介 (森林総研)
造林8	混交植栽人工林で過収量はみられるか？－カラマツ・ヒノキ混交植栽人工林の事例－ 長池卓男・長谷川喬平 (山梨県森林研)
造林9	スギ特定母樹の自然交配種子から生産された苗木の植栽試験について 今橋大輔 (茨城県林技セ)
造林10	スギの第二世代精英樹候補木を母樹とするコンテナ苗の初期成長に及ぼすその出荷規格の影響 山野邊太郎・大平峰子・千葉一美・坪村美代子 (森林総研林育セ)・高島有哉・宮下久哉 (森林総研林育セ関西)・ 楠城時彦 (森林総研)・加藤一隆 (森林総研林育セ北海道)・高橋誠 (森林総研林育セ)
造林11	ヒノキコンテナ苗の形状と植栽後の発根量の関係 久保田将之 (東京農総研)
造林12	スギ・ヒノキ実生コンテナ苗の品質に関わる各形質間の関係性について 阿部森也 (茨城県林技セ)
造林13	豚の尿由来の液肥を用いて育成したヤナギの2年目の成長 香山雅純・高橋正義 (森林総研)
造林14	Understanding urban trees of Setagaya city in correlation with the interests and perceptions of the city dwellers about trees Kibalama Marvin Bogere, Iwao Uehara (Tokyo University of Agriculture)
育種	
育種1	コウヨウザンさし木苗の直立性のクローン特性 近藤禎二・藤澤義武 (森林総研林育セ)・山口秀太郎 (森林総研林育セ関西)・竹中拓馬・山田浩雄 (森林総研林育セ)・大塚次郎 (森林総研林育セ九州)
育種2	高温とカメムシ吸汁害がスギ種子発芽率に与える影響 室紀行 (埼玉県寄居林森林研)
生理	
生理1	アカマツ実生を用いた外生菌根形成実験系における灌水頻度と施肥回数との関係 田中恵・小澤光・荒谷昌輝 (東京農大)・明間民央 (森林総研)
生態	
生態1	雑木林管理およびナラ枯れがコナラの菌根菌感染率に与える影響 林寛紀・戸田浩人・崔東寿 (農工大)
生態2	葉面からの吸水は樹木の成長に影響を及ぼすのか？－実験対象樹種を選定するための葉の生理、形態特性の比較－ 才木真太郎・森英樹・南光一樹・小黑芳生・黒川紘子 (森林総研)
生態3	Plant-MFCの発電量に及ぼす土壌含水率と植被の影響 中村晟聡・崔東寿・戸田浩人 (農工大)
生態4	沖縄県の海岸林とマングローブ林を構成する樹木の葉の内部形態 田中憲蔵 (国際農林水産研究セ)・飯田真一・清水貴範 (森林総研)・漢那賢作 (沖縄県森林資源研究セ)・壁谷直記・清水晃 (森林総研九州)
生態5	東京大学秩父演習林で発生した森林火災がカミキリムシ類に与えた影響 オ木道雄 (東大秩父演)
立地	
立地1	アカマツ・ヒノキ・スギの根のポリフェノールと森林土壌との関係 戸田浩人 (農工大)・東川侑生 (静岡県天竜農林局)・崔東寿 (農工大)
立地2	車道由来の浮遊粒子状物質が都市緑地と樹木幹への重金属蓄積に及ぼす影響 加藤優空・戸田浩人・崔東寿 (農工大)
立地3	ウリハダカエデの樹液糖度に及ぼす土壌と葉の養分の影響 宇佐美広祐・戸田浩人・崔東寿 (農工大)
防災	
防災1	年輪の炭素同位体比から復元したスギとブナの水利用効率および蒸散量の比較 久保田多余子・香川聡 (森林総研)
防災2	太平洋側の温暖な低地に生育するブナの光合成速度および蒸散速度の測定 矢ヶ崎真衣・小坂泉・大庭流維・大沼祥貴・金井望元・木村昌平・山田絃太・瀧澤英紀・阿部和時 (日大)
防災3	冷温帯落葉広葉樹林における夏季のCO₂交換量に及ぼす土壌水分の影響について 大庭流維 (日大院)・小坂泉・斎藤穰・矢ヶ崎真衣・山崎悠貴・渡辺壮太・瀧澤英紀・阿部和時 (日大)

防災4	広葉樹林における相対日射率の特性 玉井幸治・後藤義明（森林総研）
防災5	みなかみ演習林のスギ樹冠における通過雨沈着量と林外雨沈着量の関係 瀧澤英紀・竹下幹太・小坂泉（日大）
防災6	利根源流の多雪森林域における沈着量と流出負荷量 稲山賢信・瀧澤英紀・水野一平・風間聖史・小坂泉（日大）
防災7	電子吊り測り及びメスシリンダーの林内雨ボトル水量計測器具としての精度検証 平口昌樹（農工大）・中島集介（元農工大）・白木克繁（農工大）・内山佳美（神奈川県自然保セ）
防災8	流木の先端部集積過程を再現するための数値シミュレーション手法 鈴木拓郎（森林総研）
防災9	九州北部豪雨時の既設治山えん堤周辺の流木堆積の調査 浅野志穂・経隆悠・岡本隆（森林総研）・黒川潮（森林総研九州）
防災10	スギの経年変化を考慮した斜面の安定解析 岡田康彦（森林総研）・黒川潮（森林総研九州）
防災11	海岸砂丘の3Dモデル化におけるCloud compareを用いたUAV撮影方法の比較 福島成樹・福原一成（千葉県農林総研森林）
利用	
利用1	日本全国における森林の団地化を考慮した未利用材利用可能量推計 有賀一広・松岡佑典・林宇一（宇都宮大）・白澤紘明（森林総研）
利用2	車両系作業機械の走行体の画像による測定法 田中良明・上村巧（森林総研）
利用3	チェーンソー用防護衣の管理指導と林業作業者の着用意識 矢部和弘・吉澤知宏・今富裕樹（東京農大）
利用4	林業における近接作業防止のためのBluetoothによる距離推定 永野蒼志・亀山翔平（東京農大）・坂元伸幸（(株)情報システムエンジニアリング）・矢部和弘・今富裕樹（東京農大）
動物	
動物1	伊豆署における職員実行によるニホンジカ捕獲の取り組みについて 町野弘明・木村慧（関東森林管理局）
動物2	改良型スリット式ワンウェイゲートの開発 池田和弘（埼玉県寄居林森林研）
動物3	東京都多摩地域におけるシカ生息分布の推移 新井一司・久保田将之・中村健一（東京農総研）
動物4	関東地方におけるカシノナガキクイムシの初発日予測の取り組み 北島博（森林総研）・小野里光・白石泉（群馬林試）・福原一成（千葉県農林総研森林）
動物5	コナラの枯死木と穿入生存木から発生するカシノナガキクイムシ 衣浦晴生・北島博・滝久智（森林総研）
樹病	
樹病1	南根腐病菌をモデルとした樹病羅病木内の病害菌特異的定量方法の確立 山口宗義・秋庭満輝・佐橋憲生・矢崎健一（森林総研）
樹病2	薬剤を用いた木質残渣中に残存するナラタケの防除 岩戸康平・全柱誠・五十嵐啓介・浦野旭・糟谷直央・太田祐子・松倉君予（日大）・佐橋憲生（森林総研）・長谷川絵里（森林総研多摩）・秋庭満輝（森林総研九州）・小野里光・北野皓大（群馬林試）
樹病3	東京大学秩父演習林におけるナミダタケモドキによる根株心腐の感染経路についての検討－支障木伐採根の解体による予備的調査結果－ 原口竜成・平尾聡秀・山田利博（東大秩父演）
樹病4	山火事跡地のスギ造林地における葉枯れ性症状について 小野里光・北野皓大（群馬林試）
林産	
林産1	カラマツ丸太における動的ヤング率と樹幹内での分布 小澤雅之・伊原隆伸・櫻田尚人（山梨県森林研）
林産2	スマートフォンで測定した固有振動数によるスギ丸太の選別方法の検討 佐藤渉・岩崎昌一（新潟県森林研）

林産3	An analysis of the prospects of briquetting technologies for forest biomass Christian Paul Kolonel, Satoshi Yoshino, Takayoshi Sato (Tokyo University of Agriculture)
林産4	つる性植物の酵素糖化 鈴木康平・瀬山智子 (東京農大)
特用林産	
特用1	マイタケ栽培の高収量化に向けた原木の厚さ及び培養方法の検討 関根直樹・小林久泰 (茨城県林技セ)・金田一美有 (茨城県県北農林事務所)・富田莉奈 (茨城県庁)・山口晶子 (茨城県県央農林事務所)
特用2	薄型菌床を用いたマイタケ栽培 松本哲夫 (群馬林試)
特用3	エノキタケ菌床露地栽培における伏せ込み方法の比較検討 中村弘一・市村よし子・小林久泰 (茨城県林技セ)
特用4	茨城県林業技術センター構内に生育する山菜類に含まれる放射性セシウム濃度の推移 小林久泰・高田守男 (茨城県林技セ)・山口晶子 (茨城県県央農林事務所)

□事務局より連絡

関東森林学会 第11期(2021年度)第1回幹事会 議事録

【日時】2021年6月17日(木) 10:00～11:35

【場所】zoomによるオンライン会議

【出席者】(順不同、敬称略)

(都道府県幹事) 金川(茨城)、坂庭(群馬)、池田(埼玉)、福原(千葉)、新井(東京)、
齋藤(神奈川)、塚原(新潟)

(国機関幹事) 久保田(森林総研、つくば市)、田村(森林総研、日立市)

(大学幹事) 有賀(宇都宮大)、白木(東京農工大)、佐藤(東京農業大)

(学会事務局) 逢沢(編集、宇都宮大)、田中恵(会計、東京農業大)、田中良明(監事、森林
総研)、本田(総務、東京農業大)

(その他) 奥田(前 総務担当理事、森林総研)、番場(行事担当県、新潟)

【欠席者】長池(山梨)、栃木県幹事、古井戸(東京大)、小坂(日本大)(順不同、敬称略)

【書記】本田(総務、東京農業大)

【事前配布資料】

01_関東森林学会_第11期_第1回幹事会_議事次第

02_決算報告書

03_第10期関東森林学会運営収支決算報告書

04_第11期学会運営予算案

05-1_「関東森林研究」第73巻への投稿論文原稿の募集について案 20210617

05-2_投稿規定改定案 20210617

06_表彰依頼文 2021

1. 会長等役員の選出について

(1) 第11期幹事(全16関係機関)は、下記のとおりである。

(都道府県)	金川 聡	(留任)	茨城県 林業技術センター
	坂庭 浩之	(留任)	群馬県 林業試験場
	池田 和弘	(留任)	埼玉県 寄居林業事務所
	福原 一成	(留任)	千葉県 農林総合研究センター
	新井 一司	(留任)	東京都 農林総合研究センター
	齋藤 央嗣	(留任)	神奈川県 自然環境保全センター
	塚原 雅美	(新任)	新潟県森林研究所
	長池 卓男	(留任)	山梨県 森林総合研究所
	高橋安則	(留任)	栃木県林業センター
(国機関)	久保田多余子	(新任)	森林総合研究所(茨城県つくば市)
	田村 明	(留任)	森林総合研究所(茨城県日立市)
(大学)	有賀 一広	(新任)	宇都宮大学
	古井戸 宏通	(新任)	東京大学
	白木 克繁	(留任)	東京農工大学
	佐藤 孝吉	(留任)	東京農業大学

小坂 泉 (新任) 日本大学

なお、会則第 9 条別表に拠れば、関係機関は全 21 機関であるが、下記機関については幹事の不在が常態化している。

筑波大学、新潟大学、玉川大学、林野庁、関東森林管理局

出席幹事から、上記機関に対して今後も当学会への参加を呼びかける旨、発言があった。

【本田追記】

幹事会終了後、奥田 前総務担当理事より下記のとおり、林野庁と関東森林管理局の会員の扱いについて報告がありましたので、ここに記載します。

- ・林野庁関東森林管理局と林野庁本庁が従前までは幹事機関だったが、先方の事情で幹事としての参画が出来なくなったので、新たな会員区分を検討して欲しいとして昨期の幹事会で検討し、新たな会員区分として「行政機関会員」を設置することとした。
- ・下記のとおり、関東森林学会第 3 条 3 項を新たに設け、大会で承認いただいた。

第 3 条 3 項「行政機関会員」本会の趣旨に賛同した行政機関が所定の会費（年 30,000 円）を納めたもの。

→本田追記：上記に伴い、第 9 条別表の関係機関も「21 機関」から「19 機関」に変更されています。

- ・行政機関会員移行後の取り扱いとしては、幹事としての活動は出来ないものの、情報交換は続けて行いたいとのことで、幹事会ではオブザーバーとしての参加をお願いしている（必ず参加されると決まっていたわけではない）。この辺りは、今一度参加の意思確認をするのが良いのかも知れない。

(2) 会則第 8 条～第 10 条に基づき、幹事による互選の結果、次のように決定した。

- | | |
|------------------|----------------|
| ・会長 | 佐藤孝吉（東京農業大学） |
| ・副会長 | 有賀一広（宇都宮大学） |
| ・総務担当理事 | 本田尚正（東京農業大学） |
| ・会計担当理事 | 田中 恵（東京農業大学） |
| ・行事担当理事 | 塚原雅美（新潟県森林研究所） |
| ・編集担当理事 | 逢沢峰昭（宇都宮大学） |
| ・総務担当理事補佐（HP 担当） | 白木克繁（東京農工大学） |
| ・監査 | 田中良明（森林総合研究所） |

(3) 今期の学会事務局を東京農業大学に置くことが承認された。

2. 会計決算報告について

・田中良明 前会計担当理事より、資料 02 および 03 に基づき、説明があり、全会一致で承認された。

- ・白木 総務担当理事補佐（HP 担当）より、昨年度の HP 関係の支出の一部に未払金（白木補佐立替分）があることが報告された。これについては、今年度の経費と合わせて、今年度に請

求することとする。

3. 大会決算報告について

- ・坂庭理事（前 行事担当理事）より，資料 02 および 03 のうち，大会運営の支出「110,079 円」について説明があり，全会一致で承認された。
- ・HP 関係の支出に関して，学会運営のための支出と大会運営のための支出の分担については，白木理事補佐と行事担当県との間で協議の上決定することとする。

4. 第 11 期運営予算（案）および事業計画について

(1) 第 11 期運営予算（案）

田中良明 前会計担当理事より，資料 04 に基づき，説明があり，全会一致で承認された。

(2) 第 11 回関東森林学会大会

下記事項が，いずれも全会一致で承認された。

- ・行事担当：新潟県（行事担当理事：新潟県森林研究所 塚原雅美）
- ・編集担当：宇都宮大学（編集担当理事：宇都宮大学 逢沢峰昭）
- ・開催日時：2021 年 10 月 27 日（水）
- ・開催場所：オンライン／リモート方式による開催

なお，リモート開催の詳細については，関東森林学会ニュース第 21 号への掲載（例年 8 月初旬）に間に合うよう，今後，行事担当理事，事務局および関係者で検討を進めることとする。

(3) 関東森林研究第 72 巻の編集・発刊状況について

本田 総務担当理事より，上原 前 編集担当理事（編集委員会委員長，東京農業大）からの情報に基づき，「第 1 巻は発刊済み，第 2 巻は掲載本数 4 本の予定で今年 9 月の発刊を予定」の旨，報告があった。

(4) 関東森林研究 原稿投稿の電子化とそれに伴う投稿規定の改訂について

逢沢 編集担当理事より，資料 05-1 および 05-2 に基づき，下記 2 点を主眼とする提案があり，全会一致で承認された。

- ①「原稿の募集時期に関する記載内容」を，ここ数年間の実態に合わせて修正明記する（具体的には「大会開催後約 3 週間以内での投稿」）。併せて，下記②との整合を図るため，原稿の提出形式を「投稿段階から電子ファイル」とする旨，修正明記する。
- ② 時代の趨勢に合わせ，かつ，編集事務の簡素化のため，原稿の提出形式を「投稿段階から電子ファイル」とする旨，投稿規定を改訂する。

上記改訂に伴う執筆要領の改訂，原稿テンプレートの改正等については，今後，編集委員会で協議して決定する。

なお，投稿規定や執筆要領の改訂や，原稿テンプレートの改正を十分確認しないまま，従前の書式で投稿する会員が毎年散見されるため，学会ニュースにおける「原稿募集時期に関する記載

内容」の項では、「最新の情報を HP 等によく確認すること」などを明記して会員への周知徹底を図ることとする。

別途、白木 総務担当理事補佐（HP 担当）より、投稿先を従来の編集委員長宛てから学会 HP 上に変更設定する旨、提案があり、今後、逢沢編集担当理事と協議することとなった。

(5) その他の事項

下記につき、確認された。

(5-1) 関東森林研究第 73 巻の編集・発行

- ・編集委員会：宇都宮大学
- ・第 1 巻は 2022 年 3 月に発行予定、第 2 巻は 2022 年 9 月に発行予定

(5-2) 関東森林学会ニュース

- ・第 21 号：2021 年 8 月初旬 第 11 回大会案内、第 10 期幹事会報告
- ・第 22 号：2021 年 10 月初旬 第 11 回大会プログラム

(5-3) 幹事会の開催

- ・第 1 回：2021 年 6 月 17 日（木）zoom 会議
- ・第 2 回：2021 年 10 月 27 日（水）新潟県（予定）

(5-4) 大会事務局会議（随時メール等にて開催予定）

- ・総務，会計，行事，編集担当

5. 表彰について（表彰委員等）

有賀副会長（表彰委員会委員長）より、今期の「関東森林学会賞」の応募方法について、資料 06 に基づき、提案があり、全会一致で了承された。

併せて、表彰委員の委嘱について下記のとおり、提案があり、全会一致で承認された。

有賀一広 （宇都宮大学）
小坂 泉 （日本大学）
上原 巖 （東京農業大学）
久保山裕史（森林総合研究所）
長池 卓男（山梨県）

6. 第 12 回大会の準備について

当幹事会にて、「次期行事担当：東京都」、「次期編集担当：宇都宮大学」であることを確認した。

なお、新井幹事（東京都）より、大会会場に予約について「東京都内で賃料が廉価な会場の予約時期は概して早く、キャンセル代も高い」旨、情報提供があった。会場予約の時期については、大会開催方式との関係もあることから、今後、東京都および事務局と協議することとする。

7. 2024 年春 開催予定「日本森林学会大会」の共催について

佐藤会長より、日本森林学会会長名で関東森林学会に対して、下記 2 点の依頼があった旨、報告された。

- ① 第 135 回日本森林学会大会（2024 年春 開催予定）の共催依頼
- ② 上記大会の開催機関の推薦

佐藤会長より、共催依頼の受諾ならびに大会開催機関として東京農業大学を推薦する旨、提案があり、全会一致で了承された。

8. その他連絡事項（総務担当より）

今後、幹事名簿を整備して送付いたします。幹事各位におかれましては、各機関所属の会員名簿を更新して事務局までお送り下さい。この名簿が会費徴収の原簿となりますので、依頼の際にはご協力を何卒よろしくお願いいたします。

第 10 期関東森林学会運営収支決算報告書

（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31）

収入の部

	費目	第 10 期予算	決算	差額	摘要
1	前年度繰越金	3,729,063	3,729,063	0	
2	会費	920,000	925,820	5,820	行政機関会費¥30,000-を含む
3	賛助会費	0	0	0	
4	論文集売却	30,000	22,500	-7,500	
5	別刷り等	800,000	721,000	-79,000	関東森林研究 71(1)、71(2)
6	雑収入	2,000	34	-1,966	利息
7	協賛金	0	100,000	100,000	日本森林学会、日本森林技術協会
8	返還金	20,000	33,302	13,302	第 9 回関東森林学会
	合計	5,501,063	5,531,719	30,656	

支出の部

	費目	第 10 期予算	決算	差額	摘要
1	ニュース印刷	150,000	147,950	-2,050	ニュースレター 19,20
2	論文集	700,000	1,180,960	480,960	関東森林研究 71(1)、71(2)、72(1)
3	大会運営	300,000	110,079	-189,921	第 10 回関東森林学会 オンラインで開催
4	編集費	30,000	0	-30,000	
5	旅費幹事会	250,000	26,080	-223,920	第二回幹事会 2 名分
6	会議費	20,000	0	-20,000	
7	通信費	50,000	12,508	-37,492	切手等
8	消耗品	50,000	1,898	-48,102	封筒等
9	表彰費	100,000	39,900	-601,00	表彰状と図書カード
10	手数料	10,000	4,510	-5,490	振込手数料
11	謝金	10,000	0	-10,000	
12	HP 管理費	50,000	0	-50,000	
13	過払い金		890	890	宇都宮大学
14	予備費	3,781,063		-3,781,063	
15	繰越金		4,006,944	4,006,944	
16	合計	5,501,063	5,531,719	30,656	

現財産

総収入	総支出	差額
5,531,719	1,524,775	4,006,944

財産内訳

常陽銀行	現金	合計
3,931,462	75,482	4,006,944

上記の通り学会運営の収支決算を報告いたします。

令和 3 年 4 月 30 日 事務局（会計担当理事）

田中良明



監査の結果、上記の通り相違ありません。

令和 3 年 5 月 28 日 監査

秋本 武



第 11 期学会運営予算案

第 11 期（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

収入の部

	費目	第 10 期予算	第 11 期予算	差額	摘要
1	前年度繰越金	3,729,063	4,006,944	277,881	
2	会費	920,000	920,000	0	行政機関会費¥30,000 を含む
3	賛助会費	0	0	0	
4	論文集売却	30,000	30,000	0	
5	別刷り等	800,000	800,000	0	
6	雑収入	2,000	2,000	0	利息、バックナンバー販売
7	返還金	20,000	0	-20,000	返還金なし
	合計	5,501,063	5,758,944	257,881	

支出の部

	費目	第 10 期予算	第 11 期予算	差額	摘要
1	ニュース印刷	150,000	150,000	0	
2	論文集	700,000	700,000	0	72(2)、73(1)
3	大会運営	300,000	300,000	0	第 11 回関東森林学会大会
4	編集費	30,000	30,000	0	関東森林研究 73(1)、73(2)
5	旅費幹事会	250,000	250,000	0	第 11 期第 1 回幹事会
6	会議費	20,000	20,000	0	第 11 期第 1 回幹事会
7	通信費	50,000	50,000	0	印刷物発送等
8	消耗品	50,000	50,000	0	
9	表彰費	100,000	100,000	0	第 11 期表彰分
10	手数料	10,000	10,000	0	
11	謝金	10,000	10,000	0	
12	HP 管理費	50,000	50,000	0	
13	予備費	3,781,063		-3,781,063	
14	繰越金		4,038,944	4,038,944	
	合計	5,501,063	5,758,944	257,881	

関東森林学会第 11 期事務局

学会長：佐藤孝吉（東京農業大学）

学会副会長：有賀一広（宇都宮大学）

総務担当理事：本田尚正（東京農業大学）

総務担当理事補佐（HP 担当） 白木克繁（東京農工大学）

会計担当理事：田中 恵（東京農業大学）

行事担当理事：塚原雅美（新潟県森林研究所）

編集担当理事：逢沢峰昭（宇都宮大学）

監査：田中良明（森林総合研究所）

連絡先 〒156-8502

東京都世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学地域環境科学部（佐藤孝吉）

TEL：03-5477-2276 E-mail：satota [あっと] nodai.ac.jp

振込口座 三菱 UFJ 銀行 経堂支店（店番号 091）

普通預金口座 0747745

口座名義 関東森林学会（カントウシンリンガツカイ）

入退会の連絡は、会計担当の田中恵（m4tanaka [あっと] nodai.ac.jp）にお願いします。